

広報・教育部門

応募事例名

大学生による災害用マンホールトイレPR大作戦！

松山市

学生が自ら
手を動かし、考え、プロモートすることで
下水道を「他人ゴト」から「自分ゴト」へ

本市では、大学生との下水道広報を、平成28年度～実施。
この取組みは、毎回テーマを設け、学生自ら手を動かし、
下水道の広報を考えます。

令和元年度に行った「災害用マンホールトイレ」にスポットを当てたPR戦略について
ご紹介します。



処理場見学や
マンホールトイレ設置訓練を実施



まずは、下水道を学び、知ることからスタート
マンホールトイレの設置方法だけでなく、
行政としての役割も学ぶ機会に。

マニュアルづくりや
市のテレビ広報に出演



災害時に市が活用するマンホールトイレの
設置マニュアルを作成したり、市テレビ広報で
マンホールトイレの重要性をPR!!

避難所への
マニュアル配布



マンホールトイレが設置されている
小中学校へ設置マニュアルを配布
偶然、恩師と再会する場面も!

Attention

下水道に気付く

Interest

下水道に興味を持つ

Search

下水道を調べる

Action

参加する

Share

意見を共有・拡散

☆国土交通省が示す下水道広報AISASに連動☆

PRポイント!

●自分が知りたいことを学生自ら調べ、伝えることで、市民により響く。

行政が伝えたい情報(=市民に知ってほしい)は、市民が知りたい情報とは限らず、見過ごされがちです。この取組みは、市民目線に近く、柔軟な発想を持つ学生に、行政側に立ってもらい、市民・行政双方の立場で広報すべき内容と方法を考えてもらいます。

●市役所の仕事を主体的に体験することで、学生にとっても社会経験の一環に!

参加学生の多くは、自治体職員を志望する学生です。この取組みは、行政の取組みに中長期間携わる中で、行政の業務を学び、考え、行動し、成果を挙げるまでの一連のプロセスを経験できるため、雇用ギャップの解消と就職活動でのアピールに役立ちます。